

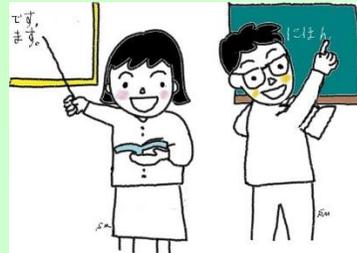
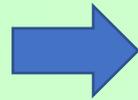
教授法と教材・教具

第6章 さまざまな教授法

第7章 学習レベルと教材・教具

太田陽子（一橋大学 国際教育交流センター）

『超基礎 日本語教育』の使い方



日本語教育って
楽しいよ!



1. 知ってもらう
2. 載っているのは「登山口」
それぞれ好きなところまで
登ってもらう

「第6章 さまざまな教授法」で伝えたいと思っていること

- 「教授法」は暗記項目なのか？

<入口>



自分の語学学習経験をふり返ってみること

語学は、固定的な教え方があるわけではないこと

いろいろな「教授法」があること



そのうらに「言語学習観」があること

いろいろな教え方に興味を持つこと



いろいろな教授法を詳しく知ること

いただいた質問より

CLILに強い関心を示す学生が多数いることが分かりました。ただ、学生が集めてきた例は、すべて小・中・高校のいずれかの実践で、日本語教育での実践はありませんでした。

- 【課題4】CLIL実践例探し:

他の言語の例でも「わくわく」できればよい



日本語教育の実践がまだ少ないことへの気づき



今後の日本語教育への適用・参考文献...

「第7章 学習レベルと教材・教具」で伝えたいと思っていること

<入口>

ふだんの「行動」や、使っている「言語表現」を
レベルという視点でとらえ直してみる（課題2・4）

課題2

- 次の言語行動は、初級・中級・上級のどのレベルに該当すると思いますか。
 - ① 友人に、夏休みや年末年始などの休暇にどこかに行くかをたずねたり、答えたりすることができる。
 - ② 電気屋などで店員に、他店との比較など値引きに値する根拠を説明しながら、商品の値段を交渉することができる。
 - ③ …

「第7章 学習レベルと教材・教具」で伝えたいこと



<入口> 【課題2】や【課題4】

→ ふだんの「言語行動」や、使っている「言語表現」を「レベル」という視点でとらえ直してみる



→ 他にどんな「言語行動」や「言語表現」が初級か、中級か、上級か・・・と考える



→ たとえば大学に入学した留学生の生活だったら？と相手に合わせた行動シラバスが提案できる

「第7章 学習レベルと教材・教具」で伝えたいこと

■教材について



<入口>

教材を「手に取ってみる」

→ いくつかの教材を比較して、違いを見つける

→ 教材の意図が理解できる

→ 教材の分析、評価ができる …

いただいた質問より

- 教材の作り方や作るものは10年前と今で変わってきたか。
- コロナ禍のもと、対面授業とは違う教授方法について知りたい。
- 教案、教材、教具には時間・お金をかけたくないが、効率性を高めるには？

→ 変化の大きいとき。

ICTを活用した教材・教授法の発展期

説明や練習のための教材 → ファシリテートのための教材

(気づきを促す、インタラクションを生み出す

コミュニケーションを補助する…)

『超基礎・日本語教育』を使った教員養成 (教授法・教材に関して)

教員養成について…

「受講生や学生に「型」や「基本のやり方」を伝えることなのか疑問を感じる」

「「日本語のおもしろさ」「日本語教育のおもしろさ」が伝えられているかどうか、いつも考えている」

→ 知識を伝えることよりも、「おもしろさ」を伝え、受講生の興味に応じて、自ら考え、深めていく「とっかかり」として利用していただきたいと思っています。

ありがとうございました！